

## はじめに

京都市では、教職員の熱意あふれる教育実践のもと、子どもたちの今と未来を見据えた、より確かな教育改革をめざして取組を進めて参りました。そのひとつとして本センター研究課では、学校教育の今日的課題の解決にむけて、9項目の研究を積み重ね、ここに、今後の教育課題に応えるために開発・研究した先行的な実践授業の成果や、確かな教育の営みを創造するために実施した調査の結果などをまとめ、刊行することとなりました。

確かな学力の定着をめざした研究では、自らの考えを深める子どもの育成のため、資料を言語化する活動を意図的に取り入れた社会科学習の実践研究を進めました。また、日頃の教科の学習が子どもたち一人一人の生き方や将来の進路と深く結びついている点に着目し、小・中学校の実践を通して今後の「生き方探究教育」の在り方について提案をしています。

校種間の連携をめざした研究では、小中連携教育が提唱されるなか、特に「指導上の留意点」を大切にして算数・数学教育、英語教育の研究を進めました。また、保・幼、小の現場での観察や情報交換の場を設定し、就学前教育と学校教育とのなめらかな接続をめざした研究を進めました。これらの研究は、子どもたちの実態から、つまりきやすい箇所や課題となる箇所を考え、それに対する具体的な支援を進めることが、確かな学力を育むことにつながるものとして提案したものです。

また、高まり合う学習集団の育成をめざした学級経営の進め方に関する研究や、望ましいスポーツ活動の在り方を求めた実践研究を進めることができました。これらの研究は、互いを尊重し、豊かな人間関係を築く集団を育成するために大切にしたい視点を提案したものです。

実態調査を通じた研究では、子どもたちの意識や生活習慣の実態を明らかにするとともに、課題と今後の方向性を示唆する研究を進めることができました。「自立」という観点から生活実態を捉え直した分析や、学力定着調査と生活意識調査との分析からは、今後の家庭への働きかけにむけて大切にしたい視点を示しています。

いずれの研究も、学校現場との密接な連携のもと、求められている喫緊の教育課題に取り組んだものです。各学校での教育計画作成のための基礎資料として、あるいは教育活動を進める上での実践事例として、生かしていただけるものと思っております。

本市教育は、常に目の前の子どもたちの実態から出発し、子どもたちの豊かな学びと育ちを支える実践を追求して参りました。本研究紀要が「一人一人の子どもたちを徹底的に大切にする」という本市教育の伝統を継承・発展させ、日々、確かな教育の営みに精励されている先生方のお取組の参考に供するところがあればと願いますとともに、忌憚のないご意見をお寄せいただきたく存じます。

最後になりましたが、各研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力員及び研究協力校の先生方、並びに関係者の方々に、心から御礼申し上げます。

平成19年3月

京都市総合教育センター  
所長 梶村 健二